

【会議録】

主 題 平成29年度第1回つくばみらい市地域福祉計画策定委員会

●日 時：平成30年1月18日（金）午後2時～

●場 所：つくばみらい市役所伊奈庁舎 2階会議室1・2

●出席委員：白鳥治代会長，坂入教男副会長，飯泉晴夫委員，齊藤常夫委員，
深谷慶仁委員，福島里枝委員，大野美香委員，川又朋子委員，
豊島美智子委員，原三津子委員，細田良政委員，中山治委員 以上12名

●欠席委員：松本譲二委員，菊地教夫委員，古舘千恵子委員，荒井栄司委員，
千葉優治委員，高木寛房委員 以上6名

●事務局：保健福祉部 吉田部長，社会福祉課 関課長，成嶋補佐，
社会福祉協議会 浅川局長，赤津事務局長補佐
㈱ワイズマンコンサルティング さいたま支店 山口孝紘

●傍聴人：なし

1. 開会（午後2時00分）
2. 委嘱状交付
3. 市長あいさつ
4. 委員長及び副委員長の選出
5. 委員長あいさつ
6. 議事

（1）第2次つくばみらい市地域福祉計画及び地域福祉活動計画の策定について

【質疑等】

委員 1：初めてでわからないのだが，今回は第2次計画となっている。ということは，第1次計画があったということですか。

事務局：はい，そうです。

委員 1：それがどうなっているか説明してもらいたいのだが。

事務局：現在、策定が終わっている第1次つくばみらい市地域福祉計画及び地域福祉活動計画については，平成26年度からの5箇年計画ということで，今まさにその計画の途中です。それが平成30年度に終了するので，現在，平成31年度に向けた第2次計画を策定するということです。前回においても，計画策定の2年前に策定委員会を開催し、皆様方からご意見を頂き，準備を進め計画を策定した経緯があります。

委員 1：わかりました。

（2）計画策定スケジュールについて

【質疑等】

委員 2：これはアンケート調査を実施し、それをもとに分析し、計画を練るということでしょうか。第1次計画は、アンケート回収も分析も終わって、現在計画に入っているのだと思うのだが、その計画を大まかに説明してもらうことはできないだろうか。我々も何をするのかなという大きな疑問だけで、全くわからない。そこを説明して頂ければありがたい。

委員 3：第1次の計画は進行中だろうが、計画書をプリントアウトして頂くことはできるか。第1次計画が終わって、これから第2次ということだが、それがリンクしていないと意味がないと思う。

事務局：第1次の計画書は在庫がありますので、委員にお配りします。やはり1次を見ての皆様の評価が必要だと思います。また、この計画書の構成については先ほど説明があったように、アンケート調査をし、現状分析し、何が求められているかという現状把握をする。人口や世帯の状況がこの5年間でどのように変わってきたかのデータを揃え、それから支援を必要とする市民の状況はどうであるかといったようなことも、年代別地域別にアンケートをとる予定でおります。それから計画の基本的な考え方として、基本理念・基本目標を定めるということで、第1次では基本目標を3つ掲げています。大まかに説明しますと、地域での市の体制づくりであるとか、ふれあいや支え合いづくりとか、安心・快適な環境づくりということで、基本方針と実際の活動計画になります。社協の方でも、一人暮らしの高齢者訪問等のいろいろな事業を実施していますが、そういう事業を今後どのように展開していくかを、皆さんにご意見を伺いながら活動計画にまとめていきたいと思っています。策定まで2年間実施し、今年度は、アンケート調査及びその分析までできればと思っています。そして来年度は、計画書づくりを皆さんにいろいろお手伝い頂ければと考えています。

委員 3：1次と2次はもちろん連動しているということですか。

事務局：はい。1次の評価というものも当然ありますし、データも変わってきています。あとは住民の意向も変化しています。最近みらい平もかなり人口が増えていますが、高齢化率については県平均と同様の25%前後になっています。みらい平には子育て世代の若い方が大分入ってきていますので、今はもっと下がっているかもしれません。ただ、市の高齢化率は若干下がっているが、地域格差がみられます。みらい平は若い世代が多いが、既存集落は高齢化が進んでおり、そういった二極化が進んでいることについてもどうしたらいいかという課題があります。

委員 長：第1次がどうなっているか、わかってから進めた方が良いと思う。

委員 3：その方がいいと思う。

事務局：そうですね。

委員 長：ありがとうございます。

事務局：第1次計画は皆さんにお配りできるよう只今、在庫を確認しています。

委員長：お願いします。

（現計画資料を委員に配布する）

（３）市民アンケートの実施について

【質疑等】

委員 ３：先ほど資料として第１次計画書を配布してもらったが、第１次でのアンケート結果というようなものは、資料の中では何か具体的にどこに記載していますか。

事務局：15 ページ以降の第２章に前回のアンケート結果を掲載しています。今回と同じように 20 歳以上が 2,000 件、回収率が 38.8%です。郵送だと一般的には４割程度の回収率と考えています。

委員 ３：ということは、今回のアンケートも第１次と同じ方式でしょうか。

事務局：同じような設問で比較をしたいということで、設問については前回とほぼ同じもので考えています。

委員 ３：ただ前回より良くしたいということであれば、回収率を 38%から 40%とか 50%にしたいというものにしていかなければいけないのではないのでしょうか。

事務局：回収率のことですか。

委員 ３：はい。今、第１次計画書を拝見してどうなのかなと思いました。無作為に郵送し、その人の意思だけで戻ってくるのをただ待つのも１つでしょうが、逆に市役所に用事があって来た人にポスター的なもので告知するなどして、何か他の方法で回収することを考えてはと。我々も一般市民で、突然ポストに届いて回答してくださいと言われて、責任を持って書く人が結果として何パーセントいるのか、ならば無作為郵送も１つの手だろうし、あとは来庁された利用者に対して、こういうことだったらば…と関心のある人を積極的に動員できる方式があっても良からうかと思います。

事務局：アンケートボックス等を庁舎に置いて、「アンケート用紙等協力できますか」という形でお願いをするということでしょうか。

委員 ３：もし出来ればですが、やはり目視というか、ここの中での目的というのが、お年寄りだとか子育てをする人、あとは障がいのある方というのがあるだろうが、それで来られる方の生の声がとれるのではないのでしょうか。無作為に行うのではなくその方がいいのではと。

事務局：わかりました。

委員 １：私はそのやり方に反対です。無作為にやるからこそ市全体の状況が判断できる。庁舎に来た人だけだと平均値が取れなくなってしまう。

委員 ３：無作為はけっこうです。無作為の他にプラスアルファがあった方が、パーセンテージが上がるのではないかと思います。

委員 1：それで市の全体的な平均値がとれるのか、調査会社のプロの人の意見を聞きたいのですが。

事務局：ちょうどコンサルタントも来ていますので、集計の仕方をご説明頂きます。

コンサル：今回の地域福祉計画に関しても、どちらかというと意識の部分になります。前回の調査、第1次計画もお手伝いさせて頂いたが、2,000件とか、若者向けの500件というのは無作為に抽出しており、特定の方には送ったりはしていません。先ほどご提案があったような形をとった場合、回収率は上がると思いますが、やはり意識のある方に配ったり、ボックスを置いて調査をしたりしてしまうと、どちらかというと意識の部分に影響があり、前回との比較が見えにくくなってしまう可能性があります。今回無作為抽出という形で調査をする、ということをこちらのスタンスとしてやらせて頂いています。回収率を上げる方法というのはいくつかありまして、お金をかける方法とかけない方法です。お金をかける方法だと、正直なところ市の予算の中でのやりくりになってしまうが、お礼状兼督促状や、アンケートを返されていない方に対して「すみません、アンケートを返してください」という督促的なもので返して頂く場合と、お金をかけないパターンですと、広報紙やホームページ、回覧板等で「今こういったアンケートを実施しているので、対象の方はご協力お願いします」という依頼をすれば、お金をかけないで注意喚起ができ、回収率が上がっていくかなと思います。ただ正直なところ、地域福祉計画はどこの自治体もそうですが、回収率3割弱というのが一般的な数字です。例えば、今年度策定している介護や障がい者の計画のアンケート調査については、当事者に配られているので回収率はとても良く、6割から7割です。どうしてもそういった対象者に配布されているので、回収率は高いです。ただ地域福祉で回収率をみると、3割ちょっとしか出ていないというのがあるので、地域福祉に対する意識の表れというところではないでしょうか。普段こういうことに注意しているかという意識の表れになってしまうので、同じ対象でやって回収率が上がれば、今年度に関しては地域福祉の意識・関心が少し高まってきているというのが見てとれるのかなと思います。逆に下がれば、意識・関心が落ちてきている状況なのかなとわかります。

委員 4：できるかできないかはわからないが、今、回収率が38%ということで、実はこの前、国の方でも統計調査を行った時に、インターネット利用の時に私の地域は一発で80%を超えました。回答をペーパーではなくインターネットやスマホで行うという考え方は、市役所ではできないのでしょうか。費用面で出来ないということもあると思いますがいかがでしょう。

事務局：これは地区別年代別によって抽出するので、スマホやインターネットで行うと偏りが出てしまうという感じがします。

委員 4：回答だけです。

事務局：情報弱者にその情報が届かないことも考えられます。

事務局：そうです。地区別年代別男女別で集計するので、こちらからある程度抽出したものに対しての答えを頂きたいというのがあります。

委員 4：それはわかりますが、抽出してお答えくださいという案内は、これはペーパーでもいいと思います。でも回答だけでもそういうことができないのでしょうか。

事務局：60代70代の方にはとても無理ではないでしょうか。

委員 4：60代70代あたりまでは出来ると思いますが。

事務局：おっしゃっていた例が国勢調査、国の施策ですので、国がある程度お金をかけて準備をしています。

委員 4：そちらにいきますか…

事務局：本計画策定は市区町村毎に取り組んでおり、当該予算で行っているということもありますので、ありがたいご提案ですが今のつくばみらい市にはまだ早いのではないかと感じます。

委員 4：そうですか、わかりました。

事務局：手法としては、リアルタイムで返ってくるから非常にいいのですが。

委員 4：65歳くらいまでなら、スマホかインターネットで回答してくださいと言うと、速やかにやって頂けた経緯が以前にありましたから。

事務局：全戸調査だと、回答の手段としてインターネットでもペーパーでも回答をもらうことがあります。いろいろな手法で全数を揃えなくてはならないための工夫ですが、コンサルタントも話したように、意識というのがこれで見てとれるというのがありますので、がらりと手法を変えるのはまだちょっと早いかと考えています。

委員 5：この部分について回収率が3割4割いかないというが、高めるのは簡単でしょう。例えばアンケートの端を1つ切り取って、市役所に持ってきて頂ければ市の方でクオカードを1枚差し上げますなど、予算は限られていますが、アンケートの回収率を高めることで、多くの意見を吸い上げたいという部分もあるかと思います。私が市民として考えるに、他市の回収率が3割かその程度で推移しているということについて、果たしてそれでいいのかどうか、回収率を高めるような何か、効果をあげるような努力をしなくてはならないと思います。アンケートも結果が出たから終わりなのではなく、本当にこのアンケートが充実したものであり、市と社会福祉協議会の活動に反映出来るような計画案、それを練ることが出来るようなアンケート内容でなければなりません。単にアンケートを行い、単に私たち委員が活動し市民の意見を聞き、そしてこういう会が立ち上がった、というだけで終わりにしてはいけません。本来市民が求めているものを、私達はこれからの計画の中で果たしていけるのか、そういった青写真というものをきちんと作っておかなければならない。アンケートの中身を使ってどのように市民に返していくかが最も大切なことです。その道中でアンケートの回答率を高める、であれば予算

を少しでも上乘せし、なおかつこのアンケートについては、見たところ地域福祉だけではなく市全体の問題も出てきそうな感じもするので、福祉以外に市民が困っていることも浮き彫りになってくるのではないのでしょうか。それを社会福祉協議会だけではなく、他にも反映できるような仕組みというか環境づくりのことも考えて作って頂ければと考えます。

委員 長：アンケートというのは無作為に出すわけで、別に対象者がいるわけではないですね。以前も 2,000 名と言ったが、例えば今回人口が増えてもそれは同じでしょうか。

事務局：アンケートというのは統計学的に回収率ではなく、回収された数で決まります。手元に資料がないので正確には申し上げられないが、これが 10 倍の人口の市であってもこの程度で、500 か 600 集まればある程度の精度に基づいた結果が出ます。これを 1 万人やって回収率が同じであっても、精度的にはさほど変わりません。テレビの視聴率も関東地方何%と出るが、おそらく 1,000 軒くらいしかそれを受信していません。関東地方の人口であっても、その程度で正確な視聴率が出るぐらいなので、人口ではなくてその回収数ということになりますので、さほど気にされなくても大丈夫です。これで 30%の回収があれば、700 を超えるアンケートが戻ってきているわけだから、精度的には十分に堪えられると考えています。

委員 5：すみません、今おっしゃったことも充分理解はしますが、回収率を高めるとするのは意識改革の問題です。この中においては、それは上げなければならない、つくばみらい市は 38%、他もそうだからそれでいいではないかというのではなく、つくばみらい市は回収率 50%・60%の回収率を誇っていると。それだけ市民の意識が福祉に向いている。そのような努力をしなければならぬというような部分はご理解頂きたいと思います。

委員 3：私も同意見です。ごめんなさい、変な意味ではないが、市役所としてやるべきことはやっています、予算消化しています、と聞こえてしまいます。一番大事なのは内容の充実なのではないのでしょうか。やはりつくばみらい市に住んでいる市民及びそれに属する団体がよりよい生活をするためのアンケートだということを念頭に考えたいので、私はもう少し回収率が良くなって、内容の濃いものになって、みんなが幸せになればいいなと思って発言させてもらいました。

事務局：いえ、とんでもない。確かに福祉に対する市民の意識が全体的に上がり、回収率が上がるということは、市にとっても喜ばしいことです。

委員 6：回収率アップに対して皆さんからいろいろと意見が出ましたが、その通りだと思います。しかし現実には市の財政がパンク寸前ですので、あまりお金はかけられません。現実的に、金も期間もなく無理だと思います。そういった中でも、市は地域の回覧や広報紙を使うなどの P R 活動を行い、回収率を少しでも上げていくという努力をお願いします。

委員長：わかりました。

委員 7：私は茨城県に嫁いできてまだ6年位で、今回初めて参加させて頂き、全然このことを知らずに今日伺っていますが、平成26年3月の資料を見て思うところがあります。アンケートをとって実際に計画を施行し、そのあと効果測定というのはしているのでしょうか。今回全く同じアンケートを行うのであれば、実際に何かいろいろ施策を実行されたとして、それによってどれぐらい参加者が増えたとか、新たに見えてきた改善点とか、そういうものが何か資料としてあって、その上で次のアンケートを作ってお送りしたほうが、効果があるのではないのでしょうか。平成26年と全く同じことをして、同じような回答が集まった時に、次にどのような計画を立てられるのかというのがちょっとわかりません。また、未成年の方にアンケートを行っています。このあたりの方は核家族の方が多いと感じていて、福祉の話をしても祖父母と一緒に住んでいない子供たちにそれがわかるのでしょうか。率直に言えば、例えば若者たちが一緒にボランティア活動ができるように、何かイベントをされているというのであればもちろん効果はあると思いますが、若者たちに聞いても、祖父母と暮らしていないからわからないのではないかと、私は思ってしまいました。

事務局：確かに計画書を作って作りっぱなしということが一番いけないので、おっしゃる通り、これに対するPDCAに基づいて計画を実行し、それに対する評価というのが非常に大事です。次回、それに対する評価というのは出したいと思います。

委員 7：評価を見ないで、もう次のアンケートを全く同じ内容で送られるということでしょうか。

事務局：それは前回の項目とどう変わってきたかを比較するため、同じような設問を出してはいますが、前回はどうだったけど今回はこうだった、ということで意識の変化を調査したいということです。

委員 7：この委員会では、その意識の変化に対して次の計画を考えるということでしょうか。

事務局：前回はどうだったけど今回はこうですといったもので、今回どんな施策を展開したらいいのかというのを計画としてまとめていきたいと考えています。

委員 7：ありがとうございます。

事務局：未成年に対するご意見については、福祉に関する意識の調査になるので、核家族だからこそこういう傾向だ、ということが逆にわかることになります。

事務局：高齢者福祉だけではなく、子育て世代に対しても施策という形で載せますので、未成年者の福祉に対する意識ということでは、そのあたりに充分生きてくると思います。

委員長：他にないですか。

副委員長：話が遡るが、スケジュールの部分で6月から7月に地域懇談会が予定されているが、そちらの方がもし決まっているのであれば、メンバーなどを教えて頂きたいと思うのですがどうでしょうか。

社 協：地域懇談会については、今社会福祉協議会の方で、各中学校区に加えみらい平地区で市内を5地区に分け、この地域福祉活動計画とは別になるが、生活支援体制整備事業というものを今年度から新たに進めています。市内を5地区において、そこで市民の方、特に、福祉関係者が中心になってしまいますが、そういった方を集めて協議体という場を作っています。伊奈東中学校地区、伊奈中学校地区、小絹中学校地区の3地区では既に協議体という話し合いの場を立ち上げており、今後1月2月をかけて、残りのみらい平地区と谷和原中学校地区を実施する予定でいます。そのような場で、毎月1回各地区で話し合いをしているので、そこで皆さんから意見を聞くことができると考えています。また、各地区10名から15名くらいになりますので、皆さんの方で人数が足りないということであれば、一般の市民の方に周知して、別の場を設ける必要がありますが、今のところ、案としてはその協議体を活用したらいいのではないかと考えています。

副委員長：わかりました。ありがとうございます。

7. その他

事務局：次回の策定委員会の開催については、スケジュールでも説明した通り、事務局としては本年度末である3月に開催させて頂きたいと考えています。今回の会議開催については、策定委員会の委員のお願いをはじめ、開催日の設定についても直近となってしまう、皆さんには大変ご迷惑をおかけし、非常に申し訳ございませんでした。次回の開催日設定の際には、余裕をもって開催したいと思っているのでよろしくお願いします。同じく日時については、調整後にまた通知をさせて頂きたいと考えています。

委員 8：木曜になるのでしょうか。

事務局：そういうことはありません。

委員 3：日にちは未定ということですか。

事務局：はい。

委員 3：ちょっとよろしいですか。さきほど委員から貴重な意見がたくさん出ましたが、この委員と、あと行政でのとりまとめを伺ってから閉会をして頂きたいと思います。これはあくまで委員としての集まりで、いろんな意見が出て、そのことに関しては次回3月の時に皆さんにご報告しますとか、このような形で回収率をアップしてよりよい生活にしていましようとか、内容の充実というものの返りがなかった。ですので、それを取りまとめて頂いて閉会して頂ければと思います。そうでなければやっている意味がありません。よろしくお願いします。

委員長：ですから、次回のお知らせを送る際に、お手数でも今日のことをまとめた資料も一緒に送って頂ければ、皆さん目を通せると思います。

事務局：なるべくそういった形で進めるようにします。

委員長：それでよろしいですか。

委員 3：はい。

委員 9：言われている主旨が違うのではないですか。例えば、言われていることに対してスケジュールはこれで決定しますとか、こういうことをやってくださいということではないのですか。

委員 3：いや、要するにまとめです。今現状はまとめがありません。言いつばなしで終わっています。これに対して行政はこのような形で対処しますとか、これに関しては対処できないのだからご理解いただけますかとか、この委員会はそういう話し合いの場だと思っています。そのとりまとめが、申し訳ないがなかったものですから。

委員長：そういう意味ですか。

委員 3：そうです。意見だけ言って、どうなったのかとクエスチョンで帰るわけにはいかない。やはり有意義な会にしたいと思います。

事務局：そうすると、ご意見頂いた回収箱の設置については、回答率は上がるが偏ったところが出てしまうというというご意見もありましたので、事務局案のようにアンケートで実施するという事でお願いします。

事務局：いや、そうではない。

事務局：そういうことではないですか。

委員 3：そういうことではないですよ。

事務局：アンケートについてはいろいろご意見頂いたが、予定通り 2,000 通を無作為で発送して回収するというやり方で進めさせていただくが、回収率を上げるような方策を市で何か考えなさいということですよ。

委員 3：そういうことです。

事務局：広報紙を利用するなどして、こういうアンケートを実施します、協力をお願いしますというような形をとるということですか。でも今からですと広報紙掲載の締切りに間に合わない。

委員 3：広報紙は 2ヶ月前でないとだめですよ。

事務局：はい。ですので、ホームページ等で周知し、少しでも回収率を上げるような方策を市の方でとりたいと思います。

委員 3：周知啓発というような意味でなくてもいいですから、内容がよく皆さんにわかるようにお願いします。無作為はとてもいいと思います。

事務局：福祉に対してやっていますよということで、地域福祉計画の策定を始めるということを周知したいと思います。

委員長：せっかく行うのだから、事前に皆さんに周知願います。

事務局：それから次に出た意見としては、第1次の評価ですが、それを次回までに細かくまとめられるかどうかわかりませんが、皆さんに示せるようにちょっと検討させて頂きたいと思います。

委員 3：いろいろお手数おかけしますが、よろしくお願いします。

事務局：実のあるような会議にしたいということで、いろいろご提案ありがとうございます。次回は3月、年度末でお忙しい時期にはなってしまいますが、今日の意見をふまえ、また皆さんからいろいろ積極的な提案が出して頂けるような会議になるよう、こちらとしても工夫しますので協力の方よろしくお願いします。

委員長：これで本日の議事は全て終了します。ありがとうございました。

8. 閉会

【配布資料】

- ① 次第
- ② 策定委員名簿
- ③ 資料1 計画策定について
- ④ 資料2 計画策定スケジュールについて
- ⑤ 資料3 市民アンケートについて
- ⑥ 地域福祉計画策定委員会設置要綱
- ⑦ 地域福祉活動計画策定委員会設置要綱
- ⑧ 第1次つくばみらい市地域福祉計画・つくばみらい市地域福祉活動計画
- ⑨ 第1次つくばみらい市地域福祉計画・つくばみらい市地域福祉活動計画【概要版】